

〔巻頭言〕

家族看護実践の発展に向けての家族看護専門看護師の育成

高知女子大学看護学部

野嶋佐由美

家族看護学が看護界、学術集団のなかで、一つの重要な学問として広く周知され、受け入れられてきたことは疑いのない事実である。したがって、次に求められることは、実践科学である看護学の中に位置する家族看護学が、看護の実践に如何に貢献することができるかという問いに答えることであろう。すなわち、家族看護学として、患者及び家族にいかに変化をもたらすことができるであろうか？どのようなアウトカムを可視的に顕在化せしめることができるだろうか？また、家族を対象とする看護介入として我々はどのような技法を、方略をもっているのだろうか？

家族看護学会は以上のような問いに答えるために、研究成果を整理することが求められている。また、研究者を組織化して、これらの問いに応える取り組みも必要であろう。さらに、家族看護学領域の実践モデルとして、「カルガリー家族アセスメントモデル・介入モデル」「家族エンパワーメントモデル」「家族長期ケアモデル」「家族生活力量モデル」などが存在しており、これらの有効性を検証していく中でも可能となろう。

このように、家族看護実践のなかに埋もれている看護の技能や知恵を可視的に顕在化させることを目指し、卓越した実践を明らかにしていくためにも、卓越した実践家、専門看護師や認定看護師の育成が求められる。

家族看護専門看護師は、家族を対象とした看護ケアに対して「卓越した6つの実践能力」を有する者である。すなわち、家族看護分野において、家族員・家

族または家族集団に対して卓越した看護を実践する、看護職者に対してケアを向上させるための教育的機能を果たす、看護職者を含むケア提供者に対してコンサルテーションを行う、必要なケアが円滑に提供されるように保健医療福祉に携わる人々の間のコーディネーションを行う、専門的知識・技術の向上や開発を図るために実践の場における研究活動を行う、倫理的な葛藤が生じた場合に関係者間での倫理的調整を行うのである。

家族看護専門看護師は、病院や地域で複雑な健康問題を有している家族や高い臨床判断と介入技術を要する家族に対する看護ケアを専門とするのみならず、スタッフナースに対して、家族看護に関する教育を集团的、個別的に行い、家族看護の質の向上に貢献することも可能である。また、病院にあっては家族看護に関するリソースパーソンとして、家族に関するリエゾンナースとして、領域を越えて機能することが可能であろう。

家族看護専門看護師は、退院時の患者・家族を一つのケア対象として捉え、安心して地域へと復帰していくことができるように支援する優れた知識と技術を有していることから、まさしくこれから求められている人材である。現在注目されている地域連携パスに、家族の視点を折り込み、家族も納得できる地域連携パスを構築することが可能であり、実際に推進していく役割を担うことができよう。

このような家族看護専門看護師が誕生し、家族看護実践の開拓者として活躍される日も近いと、その胎動を感じている昨今である。